

# 侵攻1年見えぬ出口

## ウクライナ民間犠牲8000人超

### プーチン氏核戦力を誇示

ロシアがウクライナに侵攻してから24日で1年になる。ウクライナ東部で集団殺害が行われている」とする根拠のない主張でプーチン大統領が始めた戦争は民間施設への無差別攻撃や虐殺を伴い、市民の犠牲が増え続けている。占領地の拡大の意図を隠さないロシアに対し、ウクライナは徹底抗戦する構えだ。戦争が終わる見通しは全く立っていない。

プーチン氏は23日、「祖国防衛者の日」のビデオ演説でウクライナを「我々の歴史的な領土」と呼び、軍備増強を明言。核弾頭を搭載できる新型の大陸間弾道ミサイル(ICBM)「サルマト」の年内の実戦配備をお

らためて表明し、核戦力を誇示した。ロシアは「軍事施設だけを攻撃している」と主張するが、病院や学校への攻撃が続く。国連の21日の発表によると、ウクライナで犠牲になった民間人は確認されただけでも8006人。ウクライナ政府は昨年12月、市民の犠牲者が2万人をはるかに超えた」とした。ウクライナは領土の2割近くをロシアの占領下に置かれた状態が続く。プーチン氏は昨年9月、東部・南部4州の併合を一方的に発表したが、ウクライナ軍は反転攻勢を続け、南部ヘルソン州で州都を含む下ニプロ川西岸地域を奪還した。以来、戦況は膠着状態に陥ったが、ロシアは昨年未から東部で攻勢を強め、ウク

ライナは今後の大規模攻勢につながる警戒する。英国防省は、ロシア軍側の死者の総計が17万6千〜20万人にのぼり、死者は4万〜6万人に達したとみる。ウクライナ側は昨年12月、同国軍の戦死者を1万〜1万3千人とした。国連のグテーレス事務総長は22日、国連総会のウクライナに関する緊急特別会合で演説し、ロシアによる侵攻を「国連憲章と国際法の違反」と非難した。

(キーウ)喜田尚

## 「夫は戦死」知らせだけ届いた

### 待ち続ける新婚の妻

「残念です。ご主人は殺されました」

昨年11月27日夜、オクサナ・スタロスビットさん(21)のSNSに、そんなメッセージが届いた。



ロシア兵が破壊したという住宅の前を歩く建設業ドミトロ・ポプコさん(28)。「ロシア兵が村を占拠した時は見つからないように家に隠れていました」と話す。=17日、ウクライナ首都キーウ近郊、竹花徹朗撮影

ウクライナ軍の兵士として前線に立つ夫のセルヒーさん(38)がいたのは、東部ドネツク州の激戦地バフムートー1帯。軍の関係者が送ってきたメッセージによれば、夫と同じ部隊の兵士が、ロシア軍の攻撃で殺されるどころを見たという。遺体は見つかっていない。結婚したのは2021年10月。4カ月後、ロシアの軍事侵攻が始まった。「僕が行かなければ、誰が行くんだい?」。セルヒーさんは軍に入隊した。離ればなれの新婚生活。「愛している」「食べるものはあるの?」。電話では、そんな言葉が繰り返された。最後に会ったのは、死亡



の知らせが届く3週間ほど前、セルヒーさんの休暇だった。この時に購入した新居は小さいけれど、部屋は六つある。将来きつと、子どもにも恵まれるはずだから。その家に今、セルヒーさんの姿はない。軍からはその後、夫が「行方不明」になっていると聞いた。「セルヒーの体を目にするまで、私は希望を捨てきれない。彼は、私の人生そのものだから」。ロイター通信によると、「国際行方不明者機関」

オクサナ・スタロスビットさん(右)と夫のセルヒーさん(2021年10月、スタロスビットさん提供)

(ICMP)は昨年11月、ウクライナで少なくとも1万6千人が行方不明になっているとの見方を示した。死亡の可能性が高くて、愛する人の亡きがらに触れられず、時間を止めたままの人たちがいる。遺体交換でウクライナ兵を取り戻すために、ロシア兵の遺体を前線などで収容する任務に就くウクライナ軍のオレクサンドル・ルツェンコさん(50)は言う。「死はつらいことだが、このままでは家族は『空虚な希望』を持ち続けなくてはならない。だからこそ、遺体を精製してあげることが、大切なのです」(ウクライナ中部ゼニウカ)喜田尚